

# 「タイムカプセル」 発掘への取り組み

下北森林管理署脇野沢事務所 ○ 会計係 田中 学  
会計係 柳谷広貴  
総務係 葛西伸彦

## 1 はじめに

当所は村という小さなまとまりの中に存在するというのもあつてか、伝統的に地域と密着したイベントを各種開催してきている。その代表的なものとしては産業祭とその中で開催する与作選手権大会、森林浴ウォーク大会、植樹祭などで、これらについては前回と前々回の研究発表で紹介してきた。

木材産業の低迷という重大な課題を抱えますます地域との接点が希薄になりがちな現在、このような地域イベントへの積極的な参加や国有林をフィールドとするイベントの開催などが国有林への理解を得るチャンスと考え、地域とのつながりをいかに定着させていくかをこれまで各イベントを通して引き続き検討してきた。しかし、今回はこれまで発表してきた継続開催のイベントではなく、「タイムカプセル」発掘という歳月を越えた単発のイベントを今年度開催することができたことで、このイベントを紹介しながら前回までと少し違った角度から見た「地域社会と国有林」について考察する。

## 2 イベント開催の背景

昭和62年5月に主催した植樹祭に林業体験学習の一環として地元小学校4校の生徒のうち6年生を主体とした67名の子供たちが参加した。それに合わせて同植樹地に各々「西暦2000年の私」と題した作文をタイムカプセルに詰めて埋設し、2000年8月15日に発掘しようとして約束しあったものだった(写-1, 写-2)。当事務所にはそのときの各学校の宣誓書(資-1)と、当時の新聞記事、埋設場所の略図(資-2)が、パネルに貼って壁に掛けられ保存されていた(写-3)。



写-1 当時の植樹祭風景



写-2 タイムカプセルの埋設



写-3 事務所に貼られたパネル

### 3 イベントの概況

#### (1) 準備作業

「タイムカプセル」の企画については以前から当時の営林署長にその存在や掘り出す時期などを知らされており、発掘のイベント開催を強く依頼されていた。この企画の情報は十数年前壁に掛けられた1枚のパネルだけで、当時を知る職員がほとんど在職していなかったため、当時の営林署長から開催を促すアクションがなければパネルの存在さえ忘れ去られて時期を逃していたかもしれない。

イベントを開催するに当たっては、まず日程の調整と参加者の掘り起こしから始めなければならなかった。宣誓書には成人し各地に散らばった若者達が集まりやすいようにとお盆である8月15日を明記してあり、夏祭りの最中ということもあったが関係団体と調整し、誓約日に開催することとなった。参加者の掘り起こしは名簿などの資料が全く無くやや難航したが、村の教育委員会に協力を求め、当時の6年生などの名簿から参加したと思われる人を割り出し、案内状(資-3)を送付して参加を募った。

現地の状況は13年生のスギ造林地となっており、埋設地点には標柱が立てられていた(写-4)。下草はほとんど無かったが、現地までの歩道の下草刈りと一部崩壊した林道の補修を現場作業員によって行った。



写-4 タイムカプセル埋設地(標柱)

## (2) 発掘作業

8月15日午後2時に村役場前に集合した。

参加者は当時の関係者として、生徒が30名と校長先生1名のほか、当時造林系の職員だった現脇野沢村長と営林署長だった現函館支局富永業務管理官も参加した。また、職員はお盆期間のなか5名が参加しイベントの運営を行った。

開会式では事務所長の挨拶の後、村長と元営林署長から祝辞を受け、村のバスを借りて現地へ向かった(写-5)。

標柱は各小学校毎に立てられていて、卒業生によってそれぞれの学校のカプセルを発掘することとし、参加者の少ない学校や参加者のいない学校には職員や人数の多い学校の卒業生が手伝って発掘した(写-6)。

用具は唐鍬、スコップ、ツルハシを準備し、作業用に軍手を用意した。

各小学校別に発掘作業に取りかかったが、標柱の位置が最大で1m近くズレがあったため作業は2時間にも及び、参加者のいなかった1校については当日発見できず、後日職員によって掘り出された。

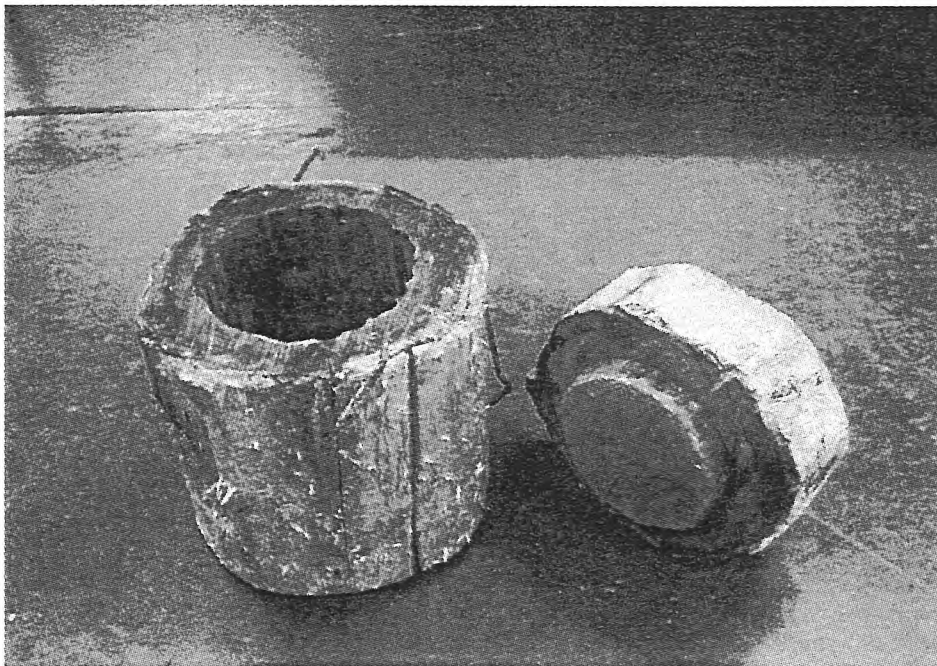
発掘したタイムカプセルの形状は、直径25cm高さ40cmのヒバ丸太をくり抜き筒状にした物で学校と営林署合わせて6つ埋設されていた(写-7)。中身はビニール袋を2重にしてテープなどで密封するなどされていたが、ほとんどが水がしみ込んでいて、保存状態の良かった物は3分の1程度だった。また、一つの小学校は空き瓶に入れられていたが、それには水が全く入っておらず風化が見られなかった。



写-5 開会式



写-6 発掘作業



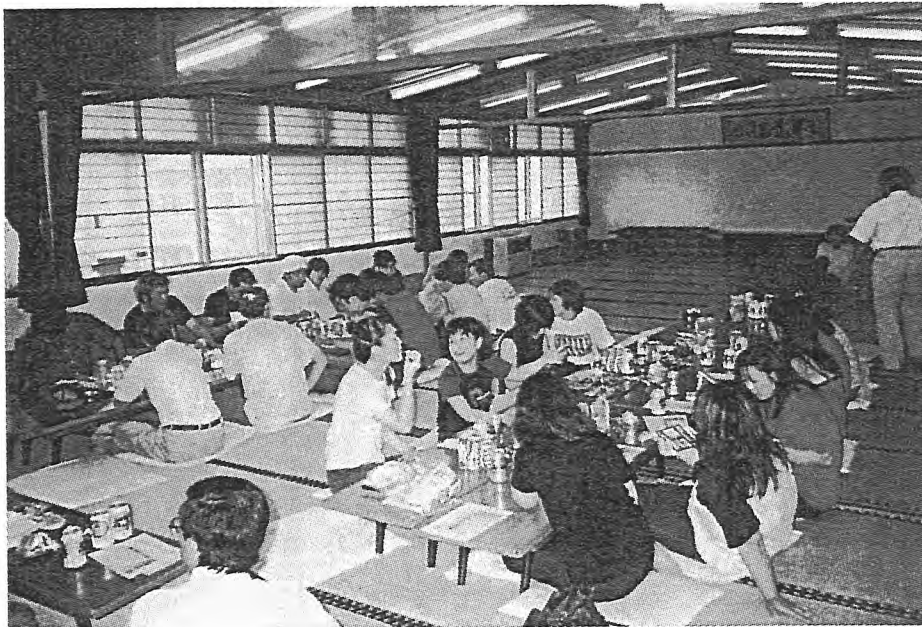
写-7 タイムカプセル

### (3) 懇親会，閉会式

発掘の労をねぎらうとともに，当時を思い出しながら再会を喜び合う場を提供したいということで，発掘した思い出の品を各自持ち帰り，教育委員会で座敷を用意して懇親会を催した（写－8）。懇親会には当所と教育委員会で飲み物とつまみを準備した。

参加者を代表して数名から，「級友と再会する事が出来て嬉しかった」「当時の夢を思い出せて面白かった」「タイムカプセルを忘れずにこういう機会を設けてくれて嬉しい」などの感想をもらった。

また，ただ一人参加された当時の校長先生からは，「当時の気持を忘れず立派な若者に成長した皆さんと再会でき大変嬉しい。この会を企画していただいた営林署を始め関係した皆様に感謝する」という言葉を頂いた。



写－8 懇親会

## 4 考察

タイムカプセルという長期的な企画については，短期間で異動する私たちの職場では実現することがなかなか難しいと思われるが，今回は2000年という記憶しやすい年を設定したことや，当時の営林署長が常に気に掛けていてくれたことで忘れ去られることなく実現できたと考える。

しかし，埋設時点において，長期の間がある事から事実を知る職員が居なくなった場合の対策などいくつかの問題点があった。一つ目は，当時の生徒や先生など，部外の参

加者について名簿等を作成していなかったことから、その特定に時間を要したことである。小さな村のため人数的にも、また、離散状況などを考慮してもそれほど大変な地域ではないが、どの学年が参加していたのかなど曖昧な部分が多く名簿の作成は必須である。2つ目は、埋設地点の正確な図面が無く、略図を頼りに標柱を探さなければならなかったことである。万が一にも標柱が無くなっていた場合にはタイムカプセルの発見は不可能であった。3つ目はカプセルと標柱の位置にズレがあったことである。今回標柱の真下にあると思って掘り進めていったが見あたらずに、その四方をまんべんなく発見できるまで掘り広げなければならず相当な労力を要した。しかも、13年という歳月と造林地の中ということで、周囲の木の根っこがかなり広がっており発掘作業が困難となった。4つ目はカプセルにはヒバを使用しており腐れはほとんど無くカプセル自体の保存状態は良かったが、かなりの浸透水があったためビニール袋も嚴重な密封でないとかまで水がしみ込むことがわかった。

地域住民とのつながりという観点からこのイベントについて考えられる事の一つに青年層との接点ということが挙げられる。森林管理署において企画する、森林や林業といったイベントへ参加する人の多くは熟年層か、もしくは小・中学生位までがほとんどで、10代後半から20代、30代といった年代の参加者が極端に少ないのが現状である。そのため、こういう年代を国有林というフィールドへ足を向けさせるということはかなり希少ではないかと思われるが、国内林産業の低迷を背景に森林・林業のPRが重要視される中、幅広い世代の関心を森林へと向けるための手がかりとして考えると、20代を対象とした今回のイベントは興味の方は違っても若者が森林について再認識するきっかけぐらいにはなったのではないだろうか。

当所では、これまで毎年開催してきたイベントも含め、多種多様なものを企画することによって幅広い世代との交流を深め、国有林と地域住民との関わりについて模索してきたが、年々職員数が減少する中で、出来るだけ有益なイベントにするために自治体や各種団体との共催や企画の再構築など、可能な範囲で工夫してきた。

今回も職員の減少とさらにはお盆期間中の開催ということで、当所だけでは開催は困難だったと思うが、教育委員会や村に協力を仰ぎ、様々な助力を得ることで無事実施することができた。

今後の国有林は職員数がさらに減少していく以上、一層の工夫とバイタリティをもってイベントの継続に努めていかなければならないと考える。

「国民の森」として子供達の夢を13年間温め、それが開かれたときの参加者の笑顔に、今後の国有林の在るべき姿の片鱗をみたような気がした。これからも地域住民に愛される国有林で在り続けるよう努力していきたいと思う。

宣誓書

私達小沢小学校五六年一同は、昭和六十  
二年五月三日の体験林業学習において  
記念植樹をし、あわせて私達の未来への  
夢と希望を書き記しタイムカプセルに入れ  
ここに埋藏しました。

そして、昭和六十二年八月十五日に、今日ここで  
記念植樹に参加した一同、再度相集い、  
タイムカプセルをあけることを誓います。

昭和六十二年五月二十五日

小沢小学校記念植樹参加者一同

宣誓書

年 名前

わたしたち脇野沢小学校六年生は、

脇野沢村にたくさん木を植え

脇野沢村に緑をふやすと共に自然を

大切にします。

また西歴二〇〇〇年八月十五日に

タイムカプセルを掘りおこすまでに

り、よな人間になるように努力することを

誓います。

昭和六十二年五月二十五日

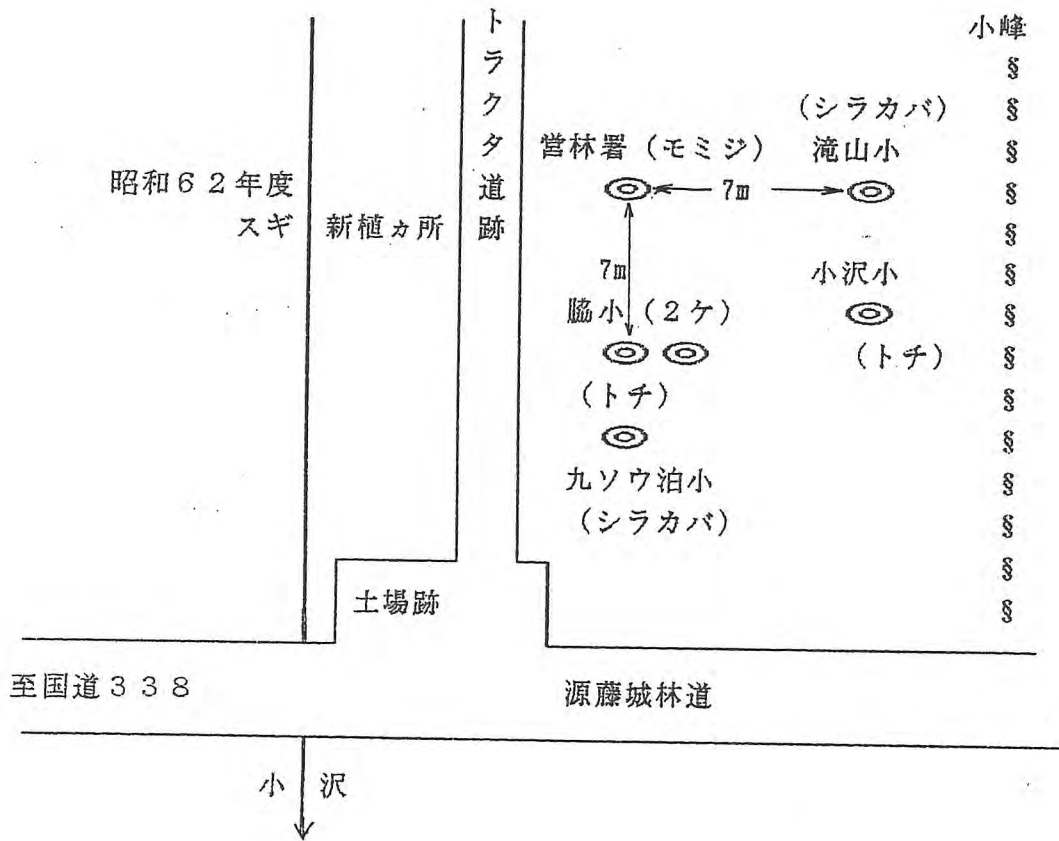
脇野沢小学校記念植樹参加者一同

代表 千船 恵



《1987年から2000年に向けて》

「タイムカプセル」埋設位置 & 「記念樹」植付概略図



\*タイムカプセルの脇に、記念樹を植え、標柱を建てた。

1987年5月

Printed by K.Naraoka

平成12年7月 日

各 位

脇 野 沢 村 長  
脇 野 沢 村 教 育 長  
下北森林管理署脇野沢事務所長  
(旧脇野沢営林署)

『2000年へのタイムカプセル』発掘について (ご案内)

謹啓 向夏の候、皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、去る1987年(昭和62年)5月25日に開催しました営林署の植樹祭においてタイムカプセルを国有林内に埋蔵いたしました。その掘り起こしを誓い合いました2000年8月15日がいよいよ差し迫ってまいりました。

当時の夢や懐かしい思い出のたくさん詰まったタイムカプセルを埋めて夢を誓い合った皆さんが、2000年となった今再び集い、開封して、時間を超えた宝物を手には当時の思い出話に花を咲かせる場として頂きたいと思っております。

つきましては、下記の日程で開催いたしますので皆様ご友人お誘い合わせの上、多数のご参加をお待ちいたしております。なお、参加人数を把握するため返信用のハガキを同封致しましたので、ご記入の上投函願います。

記

1. 開 催 日 平成12年8月15日(火)
2. 集合時間・場所 14:00 脇野沢村役場前集合
3. 参加予定者 脇野沢村長  
脇野沢村教育長  
各小学校長  
下北森林管理署脇野沢事務所長  
記念植樹参加者(昭和62年当時) 67名  
脇野沢小学校の6年生  
小沢小学校の5・6年生  
滝山小学校の14名  
九艘泊小学校  
当時の関係者  
その他
4. そ の 他
  - ・現地まではバスにて送迎します。
  - ・用具は当方にて用意します。
  - ・運動靴等動きやすい格好でお越しく下さい。

事務局：下北森林管理署脇野沢事務所  
管 理 官  
Tel 0175-44-2221